PHILIPS

Healthcare

Customer story

救助の経験は永遠に

人里離れた場所で人命救助のキセキ

2020年8月、女性救急隊員としてのキャリアを終えたChristine Bentonは、夫のBrian Bentonと車中心のバンライフを送る予定でした。そのときは、かつて救急隊員として受けた救命救助の勤務経験がこんなにも早く再び役立つことになろうとは、Benton夫妻は知るよしもありませんでした。

2021年1月15日、Benton夫妻はアメリカのアリゾナ州ウィルコックスの40km南に位置するキャンプ場に滞在していました。ブドウ園の中にあるこのキャンプ場は美しくも、最寄りの病院まで車で35～40分ほどかかる、人里離れた場所に位置していました。

ことのはじまり

ブドウ園のキャンプ場で、52歳の健康な女性、Karen Schluterは、突如胸に違和感を覚えました。数年前に父親が亡くなったときのような不安発作だろうと思った彼女は、夫のJeffにそう伝えました。しかしその途端、Karenは突然Jeffの腕へ倒れて意識を失い、呼びかけに応じることもできない状況に陥ってしまったのです。

近くにいたBrianが騒ぎの現場に駆け寄ると、地面に倒れて動かない人がいました。それがKarenでした。Brianはすぐに自分の車に戻り、「AEDが必要だ」と、妻のChristineに向かって叫びました。

万が一のことを考え、人命救助に不可欠なツールをどうしても手元に置いておきたかった。
Christine Benton

「万が一のため」の買い物が救いの手に

Christineは、突然の心停止において命を救う唯一の方法は、早期の除細動と心肺蘇生法（CPR）だけであることを知っていました。車での旅行で定年退職後（60歳以上）の利用者が多いRVパークへ行く際にフィリップスのAEDハートスタートHS1を購入しましたが、AEDを購入した理由として、彼女は「夫のBrianが倒れたときのため」と冗談で言っていました。

「使う相手が、夫や友人か、あるいは赤の他人になるのかはわかりませんでしたが、万が一のことを考え、人命救助に不可欠なツールをどうしても手元に置いておきたかったのです」

ChristineとBrianは、フィリップスのAEDハートスタートHS1と救急用具一式を持って、車でRVパークへ向かいました。

「AEDを抱えて倒れた人に駆け寄ったとき、まず驚いたのは、倒れたのがよりによって一流のアスリートであるKarenだったことです」とChristineは彼女について話しました。

「自分の気持ちにスイッチが入って、自身がまるでレスキュー・モードになったように感じました」彼女はAEDの音声ガイドに従い、パッドをKarenの胸部に貼ると、AEDは即座に解析を開始し、電気ショックが必要であることを伝えました。

「誰もKarenに触れていないことを確認してから、電気ショックを実行しました」と彼女は話します。AEDからCPRを継続する指示が出たため、30秒ほど胸骨圧迫を行ったあと、フェイスマスクで人工呼吸を行いました。「その後、Karenは自発呼吸できるようになり、脈拍も戻って、だんだん状態が良くなっていきました」

（左から）ブドウ園オーナーのChad Preston、居合わせたキャンパー、Karen SchluterとJeff Schluter、Christine BentonとBrian Benton

フィリップスのAEDハートスタートHS1、医療従事者に限らず誰でも使えます

「フィリップスのAEDハートスタートHS1はやるべきことを指示してくれますし、2分ごとに患者をモニタリングして、電気ショックが必要かどうか、必要でない場合はCPRを続けるよう指示してくれます」Christineはそう語ります。「とにかく簡単です。必要な準備は、AEDにバッテリを入れ、AEDのパッドを備えておくだけです。あとはハサミを用意しておけば、パッドを貼るために胸部を露出させる場合に便利です」

調査によると、倒れてから3～5分以内にCPRと除細動を行うことで、48～75%という高い生存率を得られることが示されています[1]。キャンプ場から最寄りの救急医療機関まで車で35～40分の距離のため、近くにAEDがあったことはKarenにとって幸運でした。その後救急車が到着し、彼女は近くの病院からドクターヘリでツーソン市に搬送されました。

ChristineとKarenの親交は今も続いています。奇跡的に救助されたKarenは、「Christineには感謝してもしきれない」と言います。

Christineは、「彼女には自分の人生を生き続けてほしい、そして彼女が生き延びてくれたことに感謝していると伝えました」と話します。

サポートをしてくれる人がその場にいたこと、またRVパークに偶然立ち寄っていたBenton夫妻の車にAEDがあったことがKarenにとってどれほど幸運だったか、Christineは身を持って再確認しました。突然の心停止からの生存率はCPRと電気ショックによる除細動を実施しないと、1分経過するごとに7～10%減少するといわれています[2]。

突然の心停止は常に起こり得る、事前の準備が大切

最近の調査によると、公共の場で発生した心停止の大部分が電気ショックが必要な不整脈（またはAEDによる電気ショックが有効な不整脈）であり、公共の場でのAEDの設置が非常に重要であることが示唆されています[2]。しかし、AEDが近くになかったり、AEDを使ったCPR訓練を受けた人の不足により、多くの人の命を救う機会が失われています。信じがたいことですがアメリカでは64%の人がAEDを見たことがないというのが現状です[3]。

- アメリカ心臓協会は、AEDがより普及すれば、毎年40,000人以上の命を救うことができると推定しています[4]。
- 患者の約94%は、5～7分以内に適切かつ効果的な処置（除細動を伴うCPR）が施されない限り生存できません[2]。
- 突然の心停止による犠牲者の20人に1人しか助けることができていませんが、これは電気ショックによる除細動がすぐに行われなかったことが主な原因です[2]。
- 近くにいる人が直ちにCPRを実施し、発生から3～5分以内に除細動器で電気ショックを与えた場合の生存率は48～74%に上昇することが報告されています[1]。

ブドウ園のオーナーもその場に居合わせた人たちもAEDを購入したいと話しています。「RVパークや国立公園、ブドウ園などは人里離れた場所にあり、早期の除細動が非常に重要なため、敷地内にAEDを設置することをぜひ検討してほしいですね」Christineはそう付け加えます[2]。

万が一のためにAEDを買っておいて本当によかったです。その万が一が実際に起きたのですから。
Christine Benton

フィリップスのハートスタート除細動器についての詳細、またはAEDのご購入は、https://www.philips.co.jp/healthcare/consumer/aed/home-aed をご覧ください。

1. https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC2600120/
2. 「Cardiac Arrest」、American Heart Associationウェブサイト、http://www.americanheart.org/presenter.jhtml?identi･er=4481
3. https://www.heart.org/idc/groups/heart-public/@wcm/@adv/documents/downloadable/ucm_462303.pdf
4. American Heart Association（アメリカ心臓協会）.2004 Heart and Stroke Statistical Update.Dallas, Texas:American Heart Association, 2003.

製造販売業者
株式会社フィリップス･ジャパン
〒106-0041　東京都港区麻布台1-3-1
麻布台ヒルズ森JPタワー15階

Home AEDコールセンター　0120-227-706

受 付 時 間　9:00～17:30（土・日・祝祭日・年末年始を除く）

www.philips.co.jp/healthcare

販　　売　　名：ハートスタート　HS1
医 療 機 器 承 認 番 号：21700BZY00426000
特定保守管理医療機器 / 高度管理医療機器

改良などの理由により予告なしに意匠、仕様の一部を変更することがあります。あらかじめご了承ください。詳しくは担当営業、もしくは「お客様窓口」までお問い合わせください。記載されている製品名などの固有名詞は、Koninklijke Philips N.V. またはその他の会社の商標または登録商標です。

©2024 Koninklijke Philips N.V.

2470302
0724PDF01-TP Printed in Japan